学校法人 神奈川歯科大学新聞
第30号
2018年1月1日発行
発行元：学校法人 神奈川歯科大学広報委員会　〒238-8580 神奈川県横須賀市稲岡町82番地　電話(046)822-8751　FAX(046)822-9317

神奈川歯科大学　理事長
鹿島　勇

突破力

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、創立100周年記念式典の成功、新附属病院の完成、そして東京歯科衛生専門学校（TDH）の事業継承と、本学の未来化構想の核が具現化された年でした。

今年の標題は、横須賀・横浜・東京を軸に、攻めの成長戦略を強力に推進する集束されたエネルギー、表層を貫き基底を射抜く「突破力」としました。

人材

ショパンの曲は何故美しいのか、それは不協和音がいたる所に散りばめられているからです。レコード板は何故未だに人気が高いのか、それはCDにないアナログ特有のノイズにノスタルジアを感じるからです。半導体結晶は何故電気が流れるようになるのか、それは微量な不純物を添加することによって性質が変化するからです。これらの不協和音、ノイズそして不純物は、一般的に調和を乱す邪魔者のイメージしかありません。しかし、それらは使い方とバランス次第で、本体そのものの付加価値を高め別物へと大化けさせます。

同じように、強い組織には必ず異彩なマイノリティーが存在します。時に、彼らはマジョリティーから区分され、組織の片隅に追いやられたり、最悪の場合は排除されかねません。しかし、“婆娑羅で倜儻不羈な傾き者”と表現するに値する逸材が、組織の推進力となるスクリュー的役割を果たす突破力を秘めているかもしれません。ここでいう傾き者とは、夢や希望をも失ってしまった単なる怠け者や屁理屈をこねる奇人・変人の類ではありません。それは、志が高く自由人で洒落者であり、少々粗であるが決して卑ではなく、異才を放つ強烈な個性を有した人材を意味します。そのような個を受け入れる環境と組織のしくみが、本学の未来構想実現には必要です。

本学は、改革の主たる比重を財政再建にシフトしてきました。それは、いつの間にか自由闊達な気風、大学人としての自由奔放な発想や創造力、そしてそれを発揮主張できる環境の希薄化を生じさせました。人材の育成に確実な方程式はなく、異質な個が大化けできる学校法人としての、懐の深さと寛容さを今一度取り戻していかねばなりません。真の意味の人材とは、その様な環境の中から自然発生的に育成されてくるものである事を確信します。

原理原則

新病院完成の定礎式に臨み、法人の施主として“定礎”の文字を直筆で書くよう依頼を受け、数十年振りに筆を取りました。附属病院を信頼して来院する患者様、そこで学び働く学生や教職員の方々を“礎”とみなし、その“礎”を守り抜く決意を込めて、“定”の最後の一筆を剣のように長く引き延ばしました。大学の価値を高め、未来の設計図を戦略的に描き実行することが、私の原理原則であることを再認識した瞬間でした。

その完成した新病院の主役は患者様であり、熟練の歯科医療技術と安心感の提供がそこで働く方々の原理原則となります。その一方、道路を隔てたキャンパス側の主役は学生であり、教職員は本学の教育理念に則った医療人の育成を原理原則とします。そして教育の場を提供する大学は、学生に対して進級試験、卒業試験、国家試験を担保・保障するものではありません。それらは、自力で勝ち取る事が原理原則であることを学生は自覚しなければなりません。大学は、それを最大公約数で支援することをもって原理原則とします。

原理原則を勘違いした例が、車椅子による飛行機への搭乗拒否問題です。下半身不随のお客様が、車椅子に乗ったままでの搭乗を拒否されたため、車椅子を降りて自分の腕の力で一段ずつタラップを這って登りました。その時の乗務員は、自分の会社にとってお客様が主役であるという原理原則を忘れていました。その後、会社は本人に謝罪しました。また、昨年よりマスコミ等で大騒ぎしている、日本の経済を索引してきた大企業の数々の不正隠蔽事件は、会社としての原理原則を無視した結果に他なりません。その重要性については、本学も一組織として10年前に経験済みです。私達は、大学人としての判断や決断を迫られた時、物事の原点となる原理原則に立ち戻ることを常に意識していなければなりません。

御礼

昨年は、創立100周年記念式典を皮切りに、TDH事業継承の締結、ジャカランダフェスティバルそして新病院の完成に加えて数々のイベント等が目白押しの慌ただしい1年間でした。中でも100周年記念式典は、本学の復旧・復興を目に見える形で内外に知らしめる、最初で最後のビッグチャンスでした。汗水流して準備に奔走していただいた方々の場景が、今でも鮮明に甦ってまいります。その政治的意味合いをも含む重要な祭事を、成功へと導いていただいた教職員そして関係者の皆様方に対し、改めて衷心より深く感謝申し上げます。

おわりに

“デザイン力”とは、依頼者の要求を満足させることであり、“アート力”とは制作者本人の欲望を満たすことです。新病院の吹き抜けに完成したジャカランダの壁画は、その両者を満足させるデザインアートの傑作と言っても過言ではありません。本学の未来を戦略的にデザインアートしながら理事長として9回目の新年を迎えます。

神奈川歯科大学　学長

櫻井　孝

謹んで新年の御慶びを申し上げます。昨年は、100周年記念式典の開催をはじめとし、100周年記念事業として準備が進められてきた新附属病院の開院、また大学基準第Ⅱ期認証評価の受審等々、大変慌ただしい1年となりました。しかしながら、それぞれの事業が恙なく実施出来ましたことは、教職員の皆様をはじめ、関係者各位の惜しみのない御努力と、一致団結した御協力の賜物と、心より感謝致しております。昨年学長を拝命したばかりの私が、無事に新年を迎えることが出来ましたことも、関係者各位の御理解と御支援に支えられての事であり、皆様の御協力に深甚なる感謝を申し上げます。

さて、いよいよ平成も30年を迎えましたが、神奈川歯科大学新聞もまさに第30号を発行する運びとなり、本学の隆盛を象徴するような慶事と大変嬉しく感じております。元号の方は間もなく改元される模様ですが、本学の隆盛は今後益々加速していかなければなりません。将来における本学の隆盛のため、平成30年にまず本学が行うべき目標として、新しい附属病院における診療を軌道に乗せることがあげられます。新しい附属病院の診療が軌道に乗るということは、本学の存在価値を地域に認めていただくことであり、患者様の信頼を得ることでもあります。このことは、臨床実習において患者様に快く実習に協力していただけることへと繋がり、本学における歯学教育を益々充実させるためにも非常に重要です。

一転、視点を少し広範囲に移せば、我が国においては近年歯科医師受給問題がクローズアップされ、全国の歯科大学・歯学部は根拠に乏しい歯科医師過剰の風評により大変厳しい状況を余儀なくされておりました。しかしながら、現在の歯科医師構成年齢をきちんと確認すれば、半数以上の歯科医師が小生よりも年配の方々であることがわかります。したがって、間もなく団塊の世代の先生方がリタイアされる時代を迎えることになり、一転して歯科医師不足を生じることが危惧されます。実際、地方においては既に後継者不足による障害を生じ始めている地域も認められており、私共はこれからの歯科医療界を支えていくための、次世代を担う優秀な歯科医師を育成していかなければならない責務を負っております。

平成30年がスタートいたしましたが、今年は本学が半世紀の節目となる第50回全日本歯科学生体育連盟の主管校を務めるなど、引き続き大変慌ただしい年となることが予想されます。教職員の皆様、関係者の皆様におかれましては、本年も何卒御協力、御支援を賜りますよう御願い申し上げます。

神奈川歯科大学短期大学部　学長

長谷　徹

『未来はためらいつつ近づき、現在は矢のように飛び去る。そして、過去は…』

新年明けましておめでとうございます。

昨年には、5月に創立100周年の記念祝賀会が開かれ、本学園の一世紀を超える長い歴史の1ページに立ち会えたことへの誇りと喜びに胸を熱くし、また、改めて先人の御尽力に感謝いたしました。そして、11月には念願の新病院が竣工し、歯科衛生学科の学生はもとより、今後は看護学科の学生も臨床実習を行うべく準備を進めてまいります。

さて、短大の使命は、地域の高等教育機関として3年間という限られた期間で専門教育を提供し、それを受けたものが社会に貢献することにあります。その目的のために教職員が一丸となって日々学生教育に頑張り、また、研究に勤しむことが求められています。実際、現場で頑張る皆さんの努力は大変なもので、それはあっという間に過ぎる一日の早さが何より物語っております。

ベートーヴェンの交響曲第九番で有名な『歓喜の歌』の原詩であるドイツの詩人フリードリヒ・フォン・シラーの詩『歓喜に寄す』の「未来はためらいつつ近づき、現在は矢のように速く飛び去る。そして過去は永久に静かに立っている。」というのがございます。私達の日々は正に矢のように飛び去りますが、その足跡を振り返れば、そこには本学の歴史が燦然と輝き、静かに泰然と我々を見守ってくれています。その安心感と本学を支えているという自負を胸に、神奈川歯科大学短期大学部と神奈川歯科大学が一体となって未来へと大きく進んでいきましょう。

最後に、神奈川歯科大学短期大学部の教職員が神奈川歯科大学の一員としてその力を発揮し、本学園の益々の発展に寄与することを心から願っております。

神奈川歯科大学　副学長・大学院研究科長
槻木恵一

次世代大学人の育成

新年あけましておめでとうございます。2018年は、大学にとって岐路となる年と言われております。子供が減って大学生の確保が一段と厳しくなり始めるのが理由です。その様な時代に、生き残る大学とは、教育・研究・臨床の充実という歯学を教授する大学の使命を改めて原点に帰り確実に進めることができた大学ではないでしょうか。本学ではすでに、教育改革が先行して断行されその成果が見え始めています。また、臨床面では附属病院の開院という大きな発展が行われました。一方で、研究面では科学研究費や英語論文の減少が起きています。研究は、これからの次世代の大学人の育成に必要な活動であり、神奈川歯科大学が社会に貢献するためにもなくてはなりません。そこで、本年から大学院研究マスタープランに、「次世代大学人の育成」を重要な推進項目として位置づけ、人材育成に必要な施策に取り組んでいきます。特に、その牽引役として基礎系教員の役割は極めて重大です。大学院の役割を自覚しつつ、今後の神奈川歯科大学力の向上に努めていきます。何卒ご支援ご協力をお願いいたします。

神奈川歯科大学附属病院　病院長
小林　優

新病院の門出

新年、明けましておめでとうございます。また旧年中は、新病院の準備段階から、多額のご寄付をはじめとする様々なご支援を頂き、誠にありがとうございました。

新病院は、昨年末に竣工式も無事終了し、本格始動とともに新たな1年を迎えることとなりました。まだ開業して2か月ですが、清潔で広々とした診療室に立つと、明るい未来への期待に胸が高鳴る反面、この施設を維持・発展させて行く上で、これまで以上の努力や工夫の必要性を感じ、身の引き締まる思いが致します。

さて、横須賀・三浦地域は神奈川県下でも最も高齢化が進む地域であり、基礎疾患や障害をもつ患者さん、あるいは通院自体が困難な患者さんの割合が急増しています。このような患者さんに安心・安全な歯科医療を提供するためには、それなりの施設・設備とともに、専門的な知識と経験、そして何よりも強い信念と使命感が必要です。このような正しい信念と使命感をもつ優秀な歯科医師の育成こそが、この教育病院が果たすべき最も重要な役割の一つだと思っています。今後は、我々教職員の熱意と魂をこの施設に注入し、社会に誇れる病院にすべく努力して参る所存ですので、ご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

神奈川歯科大学　副学長
菅谷　彰

2018年を迎えるに当たり

新年あけましておめでとうございます。厳しい状況と風潮される歯科界ではありますが、より良い年になりますことを祈念いたします。歯科界の発展はやはり優秀な歯科医師の輩出が必須といっても過言ではないでしょう。歯科大学、歯学部はそういった意味では歯科界の将来を背負っているといえましょう。優秀な歯科医師の育成には優れた教育内容はもとより、優能な人材の確保も大きな課題といえます。全国レベルで見れば、平成23年度の私立歯科大学・歯学部の総受験者数は4,400名程度だったものが、29年度には8,500名にも増加しています。より多くの受験者から選抜される歯科学生のレベルは少しずつ向上していると思われます。平成30年度もまた、本学の提供する教育プログラムを求め、多くの優秀な学生が入学し活躍してくれることを期待しています。学生生活に目を向ければ、本年8月には第50回歯科学生総合体育大会の夏季部門が本学の総合主幹のもと実施されます。厳しい学修環境の中、学生生活を謳歌する胆力ある学生の育成、こういった地道な教育活動が将来の歯科界を支える歯科医師の輩出につながるものと信じ、微力ではありますが、更なる向上をめざし尽力していきたいと考えております。

横浜研修センター・横浜クリニック　院長
井野　智

平成30年を迎えて

新年明けましておめでとうございます。

昨年7月、開設15周年を迎え、横浜市立大学との大学間連携協定の下、人事や研究面での交流が一層進み、消化器内科や耳鼻咽喉科の充実化が図られました。また、市民向けの医療シンポジウム・公開講座も計8回開催し、多くの市民の方に足を運んでいただき、地域社会での存在感や貢献度も充実しつつあります。さらには、かねてより計画を進めていた外国人向け医療の第1号が実施され、アジア圏をターゲットとしたインバウンドビジネス（医療ツーリズム）も着実に稼働し始めました。一方、大学院改組が施行され、横浜キャンパスの初年度として、遠隔地オンラインによる講義のライブ視聴の開始など、施設整備も進められて臨床研修施設としての充実化も図っているところでです。診療比率においては、医科部門の外来患者数の増加で、長年、歯科8割・医科2割を推移してきましたが、歯科7割・医科3割へと変化しつつあります。今後も歯科における各診療科の専門性や独自性を高めつつ、横浜クリニックの最大の特徴である医科歯科連携のクリニックとして、更なる発展に向けて進めていきたいと考えております。皆様のご協力・ご支援を宜しくお願い申し上げます。

神奈川歯科大学　法人事務局長

峯村明彦

2030年その時大学は…

新年明けましておめでとうございます。現在、我が国の人口は、平成20（2008）年をピークに減少局面にあります。低出生率と長寿命化により、世界的に最も少子高齢化が進んでおり、2030年には65歳以上が総人口の3割を超えると言われています。なかでも、75歳以上が多数を占め、現在よりも寿命が更に延びていくとの指摘もあります。一方で、18歳人口の減少も見込まれる中、人口構成等を踏まえた高等教育機関の役割・機能の在り方や量的な規模の在り方について検討され始めてきました。

今の社会は知識基盤社会であり、新しい知識・情報・技術が、社会のあらゆる領域での活動の基盤として非常に重要であるが、この知識・情報・技術をめぐる“変化”が加速度的に早くなっています。2030年頃には、IoT（Internet of Things）やビッグデータ、人工知能等をはじめとする技術革新やグローバル化の進展に伴う社会の変化、人口構成の変化や女性・高齢者等の活躍の進展、雇用環境の変化等に伴う就学・就業構造の変化等が予想されます。これらの“変化”に対応するためには、これからの教育が中核となって大きな役割を果たしていくことが求められます。神奈川歯科大学の職員の皆さん大学職員として2030年に向け何を希求しますか。

神奈川歯科大学同窓会　会長

大舘　満

年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。皆様には日ごろより同窓会活動に対しご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

学校法人神奈川歯科大学においては昨年5月には100周年記念式典、祝宴が開催され、11月には新病院が完成し、竣工式と竣工記念の祝宴が開催されました。

新病院の竣工を機に、新生神奈川歯科大学の象徴として内外に周知していくことで、神奈川歯科大学の過去の負の遺産を消し去る事ができるのです。我々同窓も胸を張って歩んでいくことができます。

さて、本部同窓会においても平成32年には同窓会創立50周年を迎え、執行部では祝賀の準備委員会を開催し準備を進めています。不正投資事件もあり40周年式典はやむなく断念致しましたが、今回は新生神奈川歯科大学をアピールする最大のチャンスでもあり、50年という大きな節目をお祝いできればと考えています。

また、同窓会では組織改革、事業の見直しを進めています。私は7回卒業ですが当時は250名を超える卒業生もあり会員が増えていくのが当然と考えられていました。最近は卒業生が7、80名程度で縮小傾向にあります。例えば、10年先に若い世代に引き継ぐためには財務基盤も小さな同窓会にすることが我々の使命です。すでに代議員会の開催は年2回から1回となり、すべての項目で見直しを進め小さな同窓会に近づけております。

そして、もう一つは組織改革、事業の見直しを進め、若手会員や女性会員が同窓会に魅力を持ち、同窓会活動に参画できるよう改革をすることが課題です。

この改革を進め、同窓会のみならず、大学、歯科界の将来の発展に寄与したいと考えております。皆様には今後ともご高配とご指導、ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。本年も皆様にとりまして良き一年でありますよう、心より祈念して年頭の挨拶とさせていただきます。

神奈川歯科大学短期大学部同窓会　会長

名取すみ子

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになりましたことと、お慶び申し上げます。

日頃より同窓会に鹿島勇理事長を始め、多くの皆様方のご理解、ご支援、ご協力をいただき感謝申し上げております。

2010年創刊の神奈川歯科大新聞に会長代行として「今年も大学と共に同窓会飛躍の年に」と拙文を載せていただき、今、会長職を仰せつかり飛躍が出来たのだろうかと反省しきりの日々でございます。

今回、同窓会総会で日本女子歯科厚生学校卒業の大先輩がご出席され、その当時のお話を伺い感慨深いものがありました。養護教諭、教育相談員、大学非常勤講師として現在もご活躍の先輩に「人を支援する⇒自分探し⇒生きざまを知る」自分が立ちうる場所に感謝する。このようなご講演をいただき、衛短（大岡山）＜1988年迄日本女子衛生短期大学をこう呼んでいた＞を卒業しなければこのような機会にめぐり逢えないと結ばれ、同窓の素晴らしさを教えていただいた一日でした。

講演会等も文化担当理事が新しい風を吹かせてくれたお陰で、着実に同窓会の輪が広がりだしたのが皆さんに伝わってきた瞬間になりました。

皆様の意に沿える同窓会を目指して更なる飛躍の年になるようお力をお貸しいただけると幸いでございます。

皆様のご健勝とご多幸をお祈りして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成 29 年度競争的資金獲得一覧

種別	課題番号	研究種目	研究代表者	所属	職名	研究課題名
科学研究費補助金	25463133	基盤研究（C）	森本　佳成	全身管理医歯学講座	教授	乳幼児の周術期における糖脂質代謝の改善に関する研究
	26463147	基盤研究（C）	高橋　聡子	口腔科学講座	講師	抗酸化物質クルクミンを用いた歯周病治療戦略の可能性 / 血管機能を指標とした解析
	15H05059	基盤研究（B）	山本　龍生	口腔科学講座	教授	要介護、認知症、転倒の予防への歯科的貢献を目指した多地域大規模追跡研究
	15K11090	基盤研究（C）	倉田　俊一		特任教授	p63 がもつ口腔癌の悪性転化抑制能をゲノム編集により解析する
	15K11135	基盤研究（C）	椎谷　亨	口腔統合医療学講座	講師	初期根面う蝕病巣に対する過再石灰化治療法の開発
	15K11136	基盤研究（C）	武藤　徳子	口腔統合医療学講座	准教授	感染歯髄への MTA 直接覆髄後のデンティンブリッジ形成機構の解明と OPN の役割
	15K11178	基盤研究（C）	星　憲幸	口腔統合医療学講座	准教授	口腔カンジダ症における唾液中代謝物質の網羅的解析と新規治療法の確立
	15K11275	基盤研究（C）	吉野　文彦	口腔科学講座	准教授	予見される口内炎の発症予防・増悪抑制を試みる新規治療マネージメントの検討
	15K11276	基盤研究（C）	小澤　重幸	顎顔面病態診断治療学講座	講師	癌を NK 細胞へ抗原提示する抗体型分子標的治療薬セツキシマブの新たな治療戦略
	15K11277	基盤研究（C）	近藤　忠稚		特任講師	エピジェネティクスの概念から判断するセツキシマブ投与前の新たな評価基準
	15K11433	基盤研究（C）	荒川　浩久	口腔科学講座	教授	低濃度フッ化物による老化・寿命制御の分子機構の解明
	15K11434	基盤研究（C）	遠山　歳三		特任講師	鶏血藤を用いた歯周病予防薬の開発に関する基礎的研究
	15K01047	基盤研究（C）	伊ケ崎　理佳		特任准教授	在宅歯科医療の分野における歯科衛生士の人材育成に向けた教育プログラムの開発
	15K20459	若手研究（B）	山田　健太朗		特任講師	抑うつ、心疾患の抑制に効果的な咀嚼運動の神経科学的解明
	15K20566	若手研究（B）	東　雅啓	口腔科学講座	助教	メタボローム解析による唾液を用いた認知機能障害の新規診断・評価法の開発
	16H05525	基盤研究（B）	木本　克彦	口腔統合医療学講座	教授	多軸鍛造技術を応用した次世代 MDF 純チタンの医療材料への展開
	16K09806	基盤研究（C）	青木　一孝	全身管理医歯学講座	教授	Dehydroepiandrosterone の生理作用の解明
	16K01135	基盤研究（C）	飯田　貴俊	全身管理医歯学講座	講師	歯学生教育のための口腔期嚥下障害体験シミュレータの開発
	16K11567	基盤研究（C）	向井　義晴	口腔統合医療学講座	教授	ポリマイクロバイアルバイオフィルムモデルを用いた根面齲蝕研究モデルの開発と応用
	16K11706	基盤研究（C）	三好　代志子	口腔科学講座	講師	ナノ修飾光触媒ハイブリッド微粒子を用いた口腔癌治療への応用研究
	16K11707	基盤研究（C）	前畑　洋次郎		特任講師	EGFR シグナル阻害作用をもつ天然由来成分を応用した口腔癌治療薬の開発
	16K11736	基盤研究（C）	居作　和人	口腔科学講座	講師	多段階癌抑制分子 CXCL14/BRAK の癌幹細胞を標的とした頭頸部癌抑制戦略
	16K11871	基盤研究（C）	渡辺　清子	口腔科学講座	講師	ポリフェノールの生体内動態と歯周炎予防機序の解明
	16K11872	基盤研究（C）	三辺　正人	口腔統合医療学講座	教授	非アルコール性脂肪性肝疾患と歯周病の関連および同疾患への歯周治療効果に関する検討
	16K11901	基盤研究（C）	李　昌一	横須賀・湘南地域災害医療歯科学研究センター	教授	メンタルストレスで生ずる活性酸素種の同定と抗酸化物質によるストレス軽減法の検討
	16K11568	基盤研究（C）	鈴木　二郎	口腔統合医療学講座	講師	硬組織溶解能を利用した根管洗浄液の有効性に関する基礎的研究
	16K11531	基盤研究（C）	泉　雅浩	顎顔面病態診断治療学講座	准教授	耳下腺導管を対象としたバーチャル CT-Sialography の確立
	16K15796	挑戦的萌芽研究	石井　信之	口腔統合医療学講座	教授	花粉症のアレルギー性鼻炎症状改善における歯科保存治療の応用に関する研究
	16K15814	挑戦的萌芽研究	木本　克彦	口腔統合医療学講座	教授	抗酸化型ナノレドックス粒子による新たなインプラント周囲炎治療法の開発
	16K15859	挑戦的萌芽研究	松澤　直子	附属病院	臨床講師	高齢者の高次脳機能と酸化ストレスに対する効果的な摂食嚥下機能療法の探索
	16K20469	若手研究（B）	室町　幸一郎	口腔統合医療学講座	助教	歯髄細胞のグライコームシフトに着目した修復象牙質形成機序の解明
	16K20520	若手研究（B）	青木　香	口腔科学講座	助教	新規抗菌性シランカップリング剤の開発・応用
	16K20521	若手研究（B）	丸尾　勝一郎	口腔統合医療学講座	助教	超小型プローブを用いた高周波超音波のデジタル印象への応用【挑戦・展開】
	17K01377	基盤研究（C）	高垣　裕子		特任教授	座位・身体不活動により脆弱化する骨の代謝を非侵襲的にモニターする測定法の開発
	17K11632	基盤研究（C）	松尾　雅斗	口腔科学講座	教授	微小循環を指標とした数値 simulation による歯周組織再生療法評価法の確立
	17K11721	基盤研究（C）	富山　潔	口腔統合医療学講座	准教授	抗菌剤処理後のう蝕、歯周病モデルポリマイクロバイアルバイオフィルム群集構造の解析
	17K11859	基盤研究（C）	鈴木　健司	顎顔面病態診断治療学講座	講師	変異型 p53 が導くエンドサイトーシス異常の解析
	17K11860	基盤研究（C）	生駒　丈晴	顎顔面病態診断治療学講座	助教	癌の新生血管を正常化させるサイトカイン CXCL14 の臨床的意義
	17K11922	基盤研究（C）	竹内　良平		特任教授	GFP ラットとの血管吻合ラット抜歯窩骨欠損修復部位の超音波刺激による骨髄細胞動員
	17K12027	基盤研究（C）	合田　征司	口腔科学講座	教授	慢性歯周炎抑制機序における p38 MAPK family 新規機能の解明
	17K12028	基盤研究（C）	木本　一成	口腔科学講座	准教授	インプラントメインテナンスでの低濃度フッ化物による創傷治癒の分子機構の解明
	17K12071	基盤研究（C）	星野　由美	短期大学部歯科衛生学科	准教授	入院加療に起因するオーラル・フレイルの包括的スクリーニング指標の開発と基礎研究
	17K11694	基盤研究（C）	山本　裕子	短期大学部歯科衛生学科	講師	腸内環境が唾液の質と感染防御をつかさどる：大腸が唾液中 IgA に与える効果の解明
	17K17112	若手研究（B）	陽　暁艶		特別研究員	多機能癌抑制分子 CXCL14 の頭頸部癌幹細胞の分化促進による癌抑制機構の解明
	17K17144	若手研究（B）	飯塚　純子	口腔統合医療学講座	助教	コロジオン膜を利用した積極的再石灰化療法の開発と審美応用への展開
	17K17195	若手研究（B）	桒原　淳之	口腔統合医療学講座	助教	介護高齢者の口腔内環境改善の取り組み ―光ナノ触媒の弾性裏装義歯への応用―
	17K17340	若手研究（B）	大塚　剛郎	口腔統合医療学講座	助教	呼吸様式が認知機能に与える影響について：NIRS による検討
	17K17387	若手研究（B）	渕田　慎也	口腔科学講座	助教	ライフコース指標を用いた口腔保健の地域診断手法の開発
	17K17388	若手研究（B）	佐々木　悠	口腔科学講座	助教	歯肉微小循環の改善とカカオ豆抽出物の歯槽骨吸収抑制効果に関する研究
	17K18192	若手研究（B）	齋田　牧子	口腔統合医療学講座	助教	ナノレドックス粒子によるアフタ性口内炎に対する抗酸化療法の新規開発
	17K18193	若手研究（B）	佐藤　武則	口腔科学講座	助教	ポリフェノールの抗加齢作用による歯周組織改善効果

平成 29 年度　学内の教育改革に関する企画公募について

学内の教育改革に取り組む教職員に対して財政的支援を行うことを目的として、教育改革に関する企画を学内公募いたしました。平成 29 年度については次の先生方の企画が採択されました。

所　　属	職　名	氏　　名	企　　画　　名
総合教育部	講　師	木村　幸司	「グループ学習」への誘い ―方法と効果を知る―
口腔統合医療学講座	講　師	浅里　　仁	小児歯科での臨床実習自験に対する多方向評価法について
全身管理医歯学講座	講　師	飯田　貴俊	口腔内 360 度カメラを用いた歯科 VR 学習プログラムの開発
全身管理医歯学講座	助　教	高城　大輔	在宅歯科診療におけるバーチャルリアリティ技術を応用した視覚教材の開発
総合歯科学講座	助　手	藤巻　龍治	スキルスラボ教育によるシュミレーション機能強化

SD 研修

平成 29 年度から、大学設置基準により SD 研修が義務化されました。

今年度第 1 回目の SD 研修会が、平成 29 年 9 月 27 日（水）に開催されました。テーマを「3 つのポリシーとは」とし、歯学部櫻井孝学長、短期大学部長谷徹学長に講演をしていただきました。本学の職員は医療系と総務系があり、学校法人でありながら学務に直接携わらない方も多くいます。今回の SD 研修では、そのような方にも、学校運営の要となる 3 つのポリシーについて理解を深めてもらうのが目的です。教員 67 名、職員 53 名の参加がありました。研修前は約 3 割の参加者が「3 つのポリシー」を知りませんでしたが、研修後は約 9 割の参加者が「理解できた」と回答しています。

≪3 つのポリシーとは≫

①アドミッション・ポリシー
（入学者受入方針）

②カリキュラム・ポリシー
（教育課程方針）

③ディプロマ・ポリシー
（学位授与方針）

※詳細については、大学ホームページをご覧ください。

神奈川歯科大学
http://www.kdu.ac.jp/dental/outline/ideal/

神奈川歯科大学短期大学部
http://www.kdu.ac.jp/college/outline/ideal/

振り込め詐欺防止はがき（かもめ～る）への協賛

横須賀市内では平成 28 年に 82 件、約 1 億 9,000 万円の「振り込め詐欺」による被害が発生しており、特に高齢者の被害が多く発生しています。

振り込め詐欺被害を防止するため、横須賀警察署と郵便局が連携・協力し、くじ付き暑中・残暑見舞いはがき「かもめ～る」を利用して詐欺が多発する地域に投函をし、注意喚起が行われました。

本学は「振り込め詐欺防止はがき（かもめ～る）」に協賛し、地域の方々への周知活動に協力をいたしました。平成 29 年 8 月 22 日（火）に横須賀警察署内で配達依頼式が行われ、翌日より約 7,000 世帯に一斉配布がなされました。

クリニックだより

医療ツーリズムについて

横浜市は、外国からの観光客にとって交通の便が良く、観光としても見所が多くあります。

近年、観光とともに、日本で健診を受けることを希望する外国の方も増えておりますが、横浜クリニックでは、日本の旅行会社と中国航空会社系列の２社と提携し、上海から観光及び仕事の関係で来日した時に、短時間で行う人間ドックを提供しています。

横浜クリニックの人間ドックは、健診の正確性、安心、安全を基本として、一日の受検者を少人数で実施しています。

また、上海への広報活動として旅行会社側で当院の撮影を行い、上海のケーブルテレビ、スマートフォンなどに掲載し、歯科と医科の健診を同日に出来る施設として広報しています。

外国の方への健診は、語学の壁、考え方の違いなどで大変な事もありますが、お互いの国の理解を広げる機会でもあり、良き医療ツーリズムになるようにスタッフ一同、日々努力して頑張りたいと考えております。

全学防災訓練の実施

平成 29 年 11 月 10 日（金）の全学防災訓練は「自衛消防組織を中核とした実践型訓練の成熟を図る」ことを目的に、各棟の自衛消防組織と本部隊との連携及び指揮通報に主眼をおいた訓練としました。

開院間もない新病院スタッフを除いた、教職員・学生等、約 1,000 名が参加しました。全館放送を用いた避難指示と防災意識の高い本部隊の指揮により、予定時刻を２分短縮する 13 分間で全棟の安否確認を完了することができました。

その後、横須賀市民安全部の伊藤係長より災害対策用「携帯トイレ」の使用法について、また、同吉野係長から、緊迫する北朝鮮情勢で注目を集める「Ｊ－アラート・弾道ミサイル発射時の行動」についてお話を賜りました。これら危機管理に必要な知識習得とともに、訓練のマンネリ化打破にも繋がります。貴重なお話を伺う事ができました。

最後に中央消防署岸隊長より訓練全般の統括と、槻木副学長より「更に真剣な訓練の実施を続ける」という強いメッセージで訓練は終了いたしました。

第 12 回神奈川歯科大学白菊会総会及び懇親会

平成 29 年 10 月 7 日（土）に、白菊会第 12 回総会並びに懇親会が執り行われました。

式典には、ご遺族様ら 220 名の方にご参列賜りました。御献体者 1,996 柱の御霊に黙祷を捧げ、本学を代表し、櫻井学長よりお言葉を頂戴いたしました。

歯学部２年生の榮元優さんと髙井雅存さんから、解剖実習の体験と感謝の言葉が語られ、会場からは暖かい拍手が贈られました。

次に、５名のご遺族様より学生達に向けてお話を賜りました。この心温まる励ましのお言葉に、改めて人間の善意、生命の尊厳や倫理感を感じてくれたものと思います。

口腔科学講座松尾雅斗教授からの「解剖学教室の今」と題した講話の後、ご参加賜りました御遺族様へ「文部科学大臣からの感謝状」授与を執り行いました。その後、白菊会友の会による心一つになる合唱会を行いました。

午後は、代表学生 49 名、教職員も参加し懇親会が行われました。親しく和やかな雰囲気の中、会員様と若い学生達にとって、同じ食卓を囲んでの談笑は大いに意義あるものであったと感じます。

こうして、式典は無事に終了しました。

新病院建築について

新病院竣工

シリーズ「新病院建築について」は、これまで皆様方に新病院のコンセプトや進捗状況をリアルタイムで報告してまいりましたが、今回で最終回となります。

念願の新病院が完成し、昨年の11月1日（水）に竣工式が新病院のエントランスホールにて執り行われました。全国の歯科大学の理事長・学長・病院長をはじめとして、医師会・歯科医師会・近隣の病院の関係者など多くの方々に参加して頂きました。

竣工式は、鹿島勇理事長の式辞から始まり、関係者によるテープカットが盛大に行われ、新病院の門出を祝いました。本学の長い歴史にまた新たな1ページが刻まれたことになります。

竣工式終了後は、内覧会へ移行し、その後10階のレストランに場所を移して竣工祝賀会が開催されました。祝賀会では、はじめに上地克明横須賀市長からご祝辞を頂き、櫻井孝学長・小林優病院長からは、新病院建設のこれまでの経緯やコンセプトについて説明がなされました。また参列者の方々からは、多数のお祝いやお褒めの言葉を頂戴し、会は盛会裏に終りました。

また、午後は関係各署の方々をお招きしての内覧会を行いました。

夕方からは、病院の教職員が集まり、12階の講堂で明日からの診療・教育に向けての結団式が行われました。

思い起こせば新病院の建築プロジェクトが具体的にスタートしたのは平成25年からですのでかれこれ4年の歳月が過ぎています。その間、紆余曲折いろいろな困難に直面しましたが、皆様方の多大なるご協力により、今日このようなすばらしい日を迎えることが出来ました。新病院プロジェクト委員会を代表して心より感謝申し上げます。

これからは、地元の方々に信頼されそして利用して頂ける地域密着型の歯科総合病院になることが次ぎなる目標となるでしょう。

（副病院長　新病院プロジェクト委員会　委員長　木本克彦）

国道16号側入口

左から　大舘満神歯大同窓会会長、永妻和子横須賀市副市長、鹿島勇理事長、小林優病院長、櫻井孝学長

≪小泉進次郎代議士
竣工式当日の朝、お越しくださいました。≫

多彩な診療スタイルを提供する次世代の歯科総合病院

超高齢社会に対応した特殊診療と新たなセンターの開設によるトータルケアを実践します。

◇　先進歯科医療センター
　6つの専門性の高い診療科が集結し、包括的な診療と最新技術を提供します

◇　オーラルケアセンター
　日々のお口のメインテナンスをサポートし、う蝕・歯周病から歯を守ります

◇　医科歯科連携センター
　歯科医師と医師が連携し、口腔と関連する医科的な疾患を対象に、口腔ケアから全身疾患の診療と予防に取り組みます

◇　全身管理高齢者歯科
　全身疾患を持つ方への歯科治療・通院困難な方への訪問診療。食べる機能に障害のある方への食支援を行います

神奈川歯科大学新附属病院定礎式並びに除幕式の開催

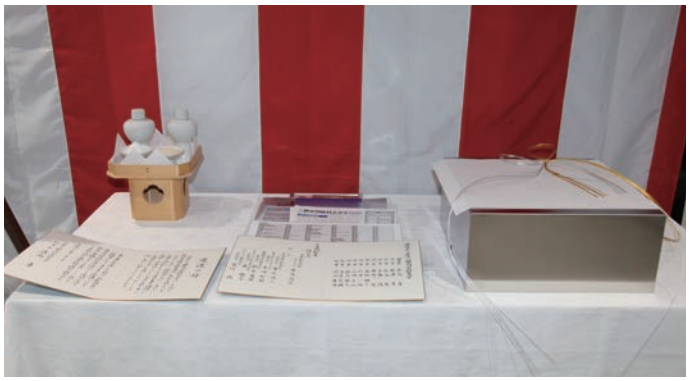
平成 29 年 10 月 5 日（木）定礎式並びに除幕式を法人理事・役席者、工事関係者ら総勢 50 名が参列し、略式にて執り行いました。

定礎の辞の奉読、定礎箱に収める 8 品の紹介に続き、鹿島勇理事長直筆の定礎板を所定の位置に収めました。引き続き新病院のシンボルと位置づける、ザ・クイーンオブジャカランダの除幕式に移り、制作者であるデザイナー小林奈生さんの挨拶に続き、鹿島勇理事長・小林優病院長と共に、その幕が外されました。

縦 11 m × 横 5 m の壮大で圧倒的なレリーフは、日本の伝統的な建築材料である漆喰をつかい、蕾の表現には天然石のアメジストとクリスタルが輝きます。絵は 1 年中咲き誇り新病院の明るい未来を照らし、訪れる方々を楽しませることでしょう。

1 階 吹き抜け側に設置

定礎式



定礎箱

附属病院新築移転推進資金募金について

附属病院新築移転への多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

ご寄付いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

平成 27 年 9 月 1 日（火）から 2 年間に亘り実施いたしました附属病院新築移転推進資金募金について、平成 29 年 12 月 1 日（金）現在の実績をご報告いたします。

実績：104,713,876 円
件数：482 件

今後も附属病院における臨床教育環境の充実と診療環境整備充実のために、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

※募金事業に関する問い合わせ：
募金事務室
電話 046-822-8751

寄付御礼　寄付者銘板
1F エスカレーター（下り）側に設置

旧附属病院

小川町駐車場

地鎮祭　平成 28 年 2 月 12 日

鍵引渡式　平成 29 年 9 月 1 日

フロアー案内図

1 ～ 5F　診療部門

総合受付

全身管理高齢者歯科・障害者歯科

1F

総合診療科

矯正歯科

小児歯科

2F

先進歯科
医療センター

スキルスラボ

特診室

3F

内科・麻酔科

口腔外科

画像診断 CT

画像診断 MRI

4F

病棟 個室

手術室

5F

6 ～ 12F　教育・管理部門

6F

7F

8F

スチューデントドクタールーム

オープンスペース

9F

10F

レストラン プエルト Puerto

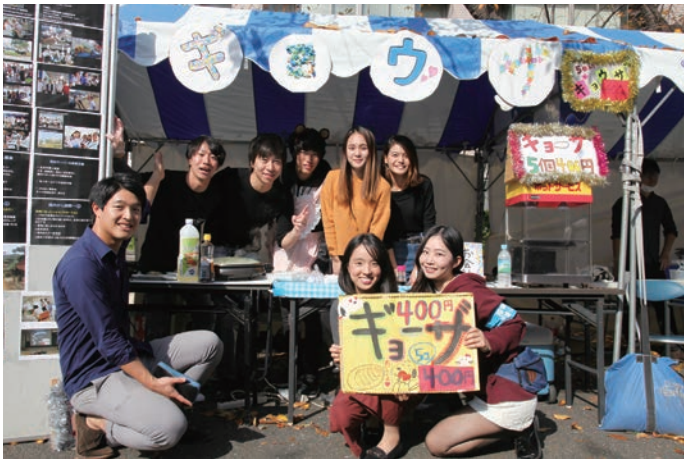
11F

12F

講堂

平成29年11月４日（土）、「Plus ultra ―更なる前進―」をテーマに今年で第53回目を迎える稲岡祭が開催されました。今年も歯科大生と短大生とが一丸となり、積極的に学園祭を盛り上げ、お子様からお年寄りの方まで多くのお客様にご来場いただきました。スペシャルゲストの「千葉雄大」さんが講堂でトークショーを行い、野外ステージでは台湾アーティストの「PiA」によるスペシャルライブが行われ、大盛況のまま幕を閉じました。各クラブや有志団体からは「チュロス」「焼きそば」「焼き鳥」「フランクフルト」といった馴染みのある出店で会場を賑わせ、「台湾風チヂミ」や「ホットク」など国際色のある出店もあり大盛況でした。地域活動市民団体の方々による様々なブースもあり、地域の方々とも一緒に盛り上げることができました。毎年恒例の「無料歯科相談」「看護医療体験」なども加わり大変賑やかな学園祭となりました。

第53回 稲岡祭
Plus ultra
―更なる前進―



この度は第53回稲岡祭“Plus ultra ―更なる前進―”にご来場いただきありがとうございました。また第53回稲岡祭開催に伴い、本学学生をはじめとする大学職員・先生方、並びに地域の皆様にはご協力賜り厚く御礼申し上げます。

平成29年度の稲岡祭のテーマである“Plus ultra ―更なる前進―”は、それぞれが個人の新たなステージに進んでいけるように日々向上心を持つということを目的といたしました。そのため、出店の分野ではメニューも去年とは違うものを提供し、サービスにも工夫をしており、さらには今回は例年と変わり午前には俳優さん、午後には台湾人アーティストをお呼びしご協力いただきました。関係者の皆様、ありがとうございました。

今回の第53回稲岡祭“Plus ultra ―更なる前進―”には、たくさんの方々にご来場いただきました。

今後も大学の発展に尽力し、地域の発展に貢献していく予定です。ありがとうございました。

（稲岡祭実行委員長）

学生が行う国際保健活動とは

ボランティアとは元来、自らの意思により参加した志願兵のことを指し、長じて、近年では自主的に社会活動などに参加し、奉仕活動をする人のことをいいます。神奈川歯科大学・国際医療ボランティア研究会は、2005年に『学生が主体となって発展途上国で歯科の保健活動を行いたい』といった志のもと発足し、その後『国際保健・日本の医療に貢献できるような広い視野を持った人材育成』を目的として活動を続け今年で設立12年を迎えました。

活動は主に国内活動と国際活動です。国内活動は介護福祉施設での活動、在日外国人相談会、歯科保健協力協議会（JAICOH）の総会への参加です。介護福祉施設では東林間歯科・清菊園の協力を仰ぎ、口腔体操、歯磨き指導の手伝いやご入居者様とのレクリエーションを行っています。

在日外国人相談会は歯科医のみならず内科医、栄養士など多岐にわたる医療者で構成され、在日外国人の健康を守るために力を尽くしています。そのため‘部活の場’としてではなく‘医療現場’として活動に参加させて頂いています。JAICOHの総会では歯科保健団体、歯学部の国際保健系サークルに混じり活動報告を行い、他団体の活動を聞くことにより国際保健・国際医療に関する知識を深めています。

国際活動は自分たちで企画立案し交渉を行い、タイ王国のマヒドン大学歯学部の学生とともにタイ北部の農村部にて子供達を対象とした歯磨き指導や高齢者に対するパタカラ体操の普及などを主とした保健指導を行っています。

国内活動と国際活動は一見離れているように思えますが表裏一体で、海外の医療を知り、自国の医療と比較し、学び、活動を循環させることで意味をなしえます。歯科医師国家資格を持たない学生ができることは限られていますが、国内における国際問題・世界における日本の問題に敏感となり今後も医療人を目指す者として充実した活動を送っていければと思っています。

最後に、大学新聞への掲載を許可していただいたこと、深く御礼申し上げます。

（神奈川歯科大学国際医療ボランティア研究会　一同）

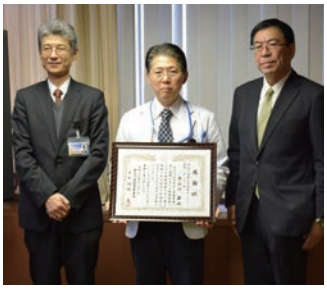
Science（何故だ！；何かを知ること）の育みとして『ミクロの世界をプレゼント！』

平成29年8月、鹿島勇理事長から東日本大震災地域である宮城県児童養護施設協議会（副会長 土倉 相）の4つの児童養護施設へ、『ミクロの世界をプレゼント！』として、ニコン教育用顕微鏡（ALPHAPHOT-YS2）22台を寄贈しました。この顕微鏡は、基礎実習室3（1号館3階）において生物学・組織学・病理学・細菌学関連の専門基礎課程の実習で26年間使用したものです。毎年保守点検を行い一般的な観察には使用できるものの、細菌観察用の油浸レンズ（100倍）のピントが合わなくなり、またレンズや部品の供給が終了したため、新規顕微鏡に入替えたことにより実現できました。

寄贈先からお礼状が届き「手近な素材を試しては覗き、ミクロな世界を楽しみながら観察し、純粋な探求心を愛らしく感じます」との言葉が添えられておりました。

神奈川歯科大学剖検センターに感謝状

神奈川県緑警察署署長阿部篤様より、剖検センター長長谷川巖教授に感謝状が授与されました。警察業務に深い理解を示し刑事警察における検視業務の中で最も重要である死因の究明に尽力し多大な貢献をされたことに対して感謝状をいただきました。



櫻井孝学長　長谷川巖教授　阿部篤署長

教学部だより

歯学部

平成 29 年度　第２回授業参観・学年別懇談会

第２回授業参観・学年別懇談会が平成 29 年 9 月 28 日（木）に神奈川歯科大学で開催され、約 112 組の保護者の皆様にご出席いただきました。午前は各学年の講義や実習の様子をご見学いただき、午後の全体説明会では櫻井学長からのご挨拶、菅谷副学長・山本教務担当部長から学生生活・カリキュラムについての説明がありました。その後、学年別懇談会が行われ、各学年主任・担任から学生の様子や学生サポート状況について報告がなされ、希望者には学年担任により個別面談が行われました。

第 49 回　全日本歯科学生総合体育大会

第 49 回全日本歯科学生総合体育大会が平成 28 年 12 月から平成 29 年 8 月にかけて開催され、今大会の優勝は愛知学院大学歯学部、準優勝は九州歯科大学でした。本学は全 29 校中、27 位でした。その中でも本学は水泳部新人戦男子、ゴルフ部女子個人、競技スキー部女子個人、柔道部男子、アーチェリー部女子個人などで見事な成績をおさめ大健闘でした。来年度は本学が主幹となり大会が開催されます。

SCRP 日本代表選抜大会

平成 29 年 8 月 18 日（金）東京市ヶ谷の歯科医師会館にて第 23 回日本歯科医師会スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム日本代表選抜大会が開催されました。本大会は、全国歯科大学／歯学部から各１名の代表学生が英語による研究発表を行うものです。本学からは、３年生の洪珮瑜さんが「A Study on the Influence of Occlusion Recovery by Denture Wearing in Elderly Subjects to Brain Activity during Waster Swallowing」という演題で義歯装置の脳活動への影響に関する研究について発表しました。

短期大学部

平成 29 年度　神奈川歯科大学短期大学部　生涯学習セミナー

平成 29 年 10 月 18 日（水）に「口は災いのもと？～口腔という不思議な空間を探検して、口は幸せ、健康長寿へ～」のタイトルで公開講座を開催しました。参加者は 49 名、元神奈川歯科大学講師の金指幹元先生と、オーラルケアセンターの荘司琴歯科衛生士による講義が行われました。

金指先生からむし歯や歯槽膿漏のみでなく口腔という器官・臓器を沢山の写真で説明していただいた後、荘司歯科衛生士の、今すぐにでも実施できる歯磨きのコツについて動画を見ながらわかりやすく説明していただきました。講義終了後には参加者から沢山の質問をいただき講師とのやり取りが活発に行われました。

今後も参加者のニーズに応えられるセミナーの開催を予定しております。

戴帽式

平成 29 年 9 月 9 日（土）に、平成 29 年度の戴帽式が挙行されました。これまで看護師の象徴だったナースキャップは、感染予防や医療安全の観点から、1990 年代の後半から廃止が始まり、今世紀に入りほとんどの病院でみられなくなりました。戴帽式は、近代看護の生みの親であるナイチンゲールの精神を受け継ぐ、という意味を持ちます。共に医療職を目指す看護学生と歯科衛生学生が、初めての病院実習に臨む前に、職業に対する意識を高め、またその責任の重さを自覚するための儀式となっています。この日の誓いを胸に、愛の精神に満ちた看護師、歯科衛生士として人びとの健康を支え、社会に貢献することを期待します。

大学院だより

大講座基幹プロジェクト研究が開始される

平成 29 年度より歯学専攻として大学院が改組され、新しい大学院教育が開始されましたが、研究に関しても新たな取り組みを大講座主体で開始しました。現在の歯学専攻は、歯科医療の発展に必要な５つの課題を掲げ、その課題解決を目指して大講座が編成されています。この大講座の重要な mission の一つが大講座基幹プロジェクト研究の推進です。大講座基幹プロジェクト研究は、各講座の受け持つ課題の解決を分野横断型研究で実施し、神奈川歯科大学の研究力を社会に還元することで建学の精神の実現を目指したものです。本年度は６つの研究プロジェクトを立ち上げました。これらの研究は、今後神奈川歯科大学における ブランドとして発展を目指しています。

講　座	リーダー	プロジェクト名
口腔科学講座	松尾雅斗	口腔機能を指標とした生活習慣病のリスクスクリーニングとリスクマネジメント
口腔科学講座	山本龍生	高齢者の根面う蝕有病状況と関連要因の解明および根面う蝕予防プログラムの開発
全身管理医歯学講座	森本佳成	認知症患者の各ステージにおける口腔機能管理の包括的戦略
口腔統合医療学講座	三辺正人	歯科大学による健康長寿に向けた口腔管理アプローチシステムの樹立
顎顔面病態診断治療学講座	岩渕博史	口腔癌における PET 検査を用いた腫瘍悪性度評価の試みと頚部リンパ節転移に対する正診率向上に関する研究
高度先進口腔医学講座	有坂博史	ライフステージを見据えた睡眠時無呼吸症候群に対する歯科的アプローチ

詳細は大学院ホームページにてご覧ください。
http://www.graduate.kdu.ac.jp/about/mainstay/

学位授与式

平成 29 年 9 月 21 日（木）大学院学位授与式が執り行われました。今回授与されたのは秋期入学者の修了生で、【甲種】三野智恵子、山口里恵、大貫真美の３名です。

2018 年度 入学試験実施一覧

歯学部歯学科（定員 110 名　男女）

試験区分	試験日	合格発表
一般１期	1 月 27 日（土） 1 月 28 日（日）	2 月　1 日（木）
大学入試センター試験利用１期	1 月 27 日（土） 1 月 28 日（日）	2 月　7 日（水）
一般２期	2 月 18 日（日）	2 月 21 日（水）
大学入試センター試験利用２期		
一般３期	3 月 11 日（日）	3 月 14 日（水）
編入３期		

※詳細はホームページをご覧ください

2018 年度 オープンキャンパス開催日程

【短期大学部】オープンキャンパス開催日程

日　程	内　容
3 月 18 日（日）	・体験授業 ・学内見学 ・学科説明 ・個別相談 ・入試説明 ・先輩と話そう！

申込フォーム

※全日 13：00 ～ 16：00【事前予約制】
※詳細は HP、スマホサイトでご確認ください

短期大学部歯科衛生学科・看護学科

歯科衛生学科（定員 120 名　男女）

試験区分	試験日	合格発表
一般	1 月 28 日（日）	1 月 31 日（水）
特待生		
AO３期	エントリー後に個別にお知らせいたします	

看護学科（定員 80 名　男女）

試験区分	試験日	合格発表
一般	1 月 28 日（日）	1 月 31 日（水）
特待生		
AO２期	3 月　4 日（日）	3 月 13 日（火）

※詳細はホームページをご覧ください

大学グッズ　第２弾！

今回は、教室の机やカフェで使用できるバックハンガーを紹介します。

☆１号館１階田中歯科器械店で販売しています。

バックハンガー（ボールチェーン無）　￥756（税込）

教室の机やカフェで、鞄の置き場所に困った事はありませんか？

カラー：４色
サイズ：φ90mm 厚さ8mm